

公益社団法人 日本材料学会  
腐食防食部門委員会 第302回例会

日 時：2015年1月30日（金）13:00～17:20

場 所：大阪科学技術センター4階 403号室 （<http://www.ostec.or.jp>）

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

（地下鉄御堂筋線本町駅2番出口より西へ徒歩8分，

地下鉄四つ橋線本町駅28番出口より北へ徒歩5分）

主題「腐食過程の局在化と局部腐食の形成」

腐食損傷で現実の問題となるのは局部腐食が大部分で、腐食研究の多くは局部腐食の形成機構や進展速度、余寿命に関する検討である。局部腐食の形成過程には電気化学反応、物質移動あるいは破壊力学などが複雑に関与するが、不働態皮膜の破壊から局所的液性変化を経て、すき間腐食や孔食などの局部腐食が形成される。さらに応力腐食割れ等では局部腐食(損傷)からき裂への変遷過程がある。近年、寿命予測等を目的として関心が高まっている腐食の数値モデルの構築のためには、これらの過程の理解とともに定量化が必要とされる。本例会では腐食の局在化の各局面について詳しい研究を重ねてこられた方々に、これまでに明らかとなった知見を解説いただき、局部腐食の形成過程についての理解を深めたい。

—プログラム—

Business Meeting

13:00～13:15

（司会：大阪大学 藤本慎司）

1. 不働態皮膜の破壊—Point Defect Modelによる解釈—

13:20～14:10

春名 匠 関西大学

2. すきま内液性の変化と局部腐食の進展

14:10～15:00

篠原 正 物質・材料研究機構

休憩

15:00～15:10

（司会：大阪府立大学 井上博之）

3. 孔食の発生過程

15:10～16:00

武藤 泉 東北大学

4. 局部腐食からき裂への進展

16:00～16:50

中山 元 (株)IHI

（司会：大阪大学 藤本慎司）

5. 総合討論

16:50～17:20

---

（協賛予定）化学工学会，火力原子力発電技術協会，近畿化学協会，軽金属学会，ステンレス協会，電気化学会，日本機械学会，日本金属学会，日本原子力学会，日本鉄鋼協会，日本防錆技術協会，表面技術協会，腐食防食学会

---

腐食防食部門委員会委員以外の方には、参加費（資料代を含む）を戴きます。

日本材料学会・協賛学会会員：5,000円，その他非会員：10,000円。

【申込先】〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町1-101 公益社団法人 日本材料学会

TEL：075-761-5321，FAX：075-761-5325，E-mail：jimu@jsms.jp